



幕末維新書留
 慶應元年一至四月

服部文庫
 イ 17
 2189
 25



117特
2189
25

二月十六日



去月廿日於京都送一稿與宗老并呈別紙等通書付後有
雜書若干以此為序上之抄抄致致

二月廿

別紙

山本運平

井伴抄部致

常州脱走之賊徒其田冬與京都之迫近有一稿亦附言
彼門類為追討出張其言人數甚多其賊徒降伏于途及法務
少業之修之者 思念之者

正月

於京都去月廿三日之稿抄不宣也者以向在有一在寺交傳 養元
以書付以在者大藏大輔以原詞之書書付不紙通後者以
大藏大輔不附紙此以在者以

服部文庫
117
2189
25

二月十日

別紙

松平 栄尾 精一郎

彦根口父言書

越前宰相

去月廿五日在京第一橋中納言様為詰言、宗老は侍に於て、松平中納言
沙汰之振而書取、海軍奉行に書取、源以、松平屋一、松平以、

二月

松平中納言
力 源屋十左衛門

別紙 彦根口父言

一 先達方、御申付、松平中納言様、母氏初大輔、妻曰、松山表出、
今十二日、三田才屋、交、大納言様、此、松平中納言様、

二月十二日

松平 田三左衛門

一 毛利大膳、内長、八國、豊浦、吉母、浦、新、解、船、一、双、添、着、有、
之、言、外、紙、所、御、書、字、上、通、云、辺、長、崎、所、在、新、紙、口、前、山、前、紙、取、
所、御、書、紙、取、及、執、達、是、秋、在、松、平、所、在、大、坂、所、在、松、平、所、在、

長崎所、御、書、紙、取、及、執、達、是、秋、在、松、平、所、在、大、坂、所、在、松、平、所、在、
之、言、外、紙、所、御、書、字、上、通、云、辺、長、崎、所、在、新、紙、口、前、山、前、紙、取、
所、御、書、紙、取、及、執、達、是、秋、在、松、平、所、在、大、坂、所、在、松、平、所、在、
月、御、書、紙、取、及、執、達、是、秋、在、松、平、所、在、大、坂、所、在、松、平、所、在、
以、誤、言、上、出、御、書、字、上、通、云、辺、長、崎、所、在、新、紙、口、前、山、前、紙、取、
所、御、書、紙、取、及、執、達、是、秋、在、松、平、所、在、大、坂、所、在、松、平、所、在、
以、不、目、代、振、言、書、字、上、通、云、辺、長、崎、所、在、新、紙、口、前、山、前、紙、取、
所、御、書、紙、取、及、執、達、是、秋、在、松、平、所、在、大、坂、所、在、松、平、所、在、
松、平、所、在、大、坂、所、在、松、平、所、在、

二月十日

松平 福永 山左衛門

別紙

口上書

松平所、御、書、紙、取、及、執、達、是、秋、在、松、平、所、在、大、坂、所、在、松、平、所、在、
之、言、外、紙、所、御、書、字、上、通、云、辺、長、崎、所、在、新、紙、口、前、山、前、紙、取、
所、御、書、紙、取、及、執、達、是、秋、在、松、平、所、在、大、坂、所、在、松、平、所、在、
月、御、書、紙、取、及、執、達、是、秋、在、松、平、所、在、大、坂、所、在、松、平、所、在、
以、誤、言、上、出、御、書、字、上、通、云、辺、長、崎、所、在、新、紙、口、前、山、前、紙、取、
所、御、書、紙、取、及、執、達、是、秋、在、松、平、所、在、大、坂、所、在、松、平、所、在、
以、不、目、代、振、言、書、字、上、通、云、辺、長、崎、所、在、新、紙、口、前、山、前、紙、取、
所、御、書、紙、取、及、執、達、是、秋、在、松、平、所、在、大、坂、所、在、松、平、所、在、
松、平、所、在、大、坂、所、在、松、平、所、在、

十二月廿八日

二月十二日

毛利大悟

防長浪原不依事有之難行宜部も方を以て打取義兼
御府の事はりしを御旨知為之諸所之者も果敢仕付て
之等も御旨知りしに及ぼす事も毛利大悟も吉川監物也
の事も御旨知りしに及ぼす事も毛利大悟も吉川監物也
令不取教少御事の上御旨知りしに及ぼす事も毛利大悟も吉川監物也

二月十二日

相平あきと

一 相平あきと

一 防長浪原不依事有之難行宜部も方を以て打取義兼
御府の事はりしを御旨知為之諸所之者も果敢仕付て
之等も御旨知りしに及ぼす事も毛利大悟も吉川監物也
の事も御旨知りしに及ぼす事も毛利大悟も吉川監物也
令不取教少御事の上御旨知りしに及ぼす事も毛利大悟も吉川監物也

二月十三日

相平あきと

一 相平あきと

一 防長浪原不依事有之難行宜部も方を以て打取義兼
御府の事はりしを御旨知為之諸所之者も果敢仕付て
之等も御旨知りしに及ぼす事も毛利大悟も吉川監物也
の事も御旨知りしに及ぼす事も毛利大悟も吉川監物也
令不取教少御事の上御旨知りしに及ぼす事も毛利大悟も吉川監物也

二月十三日
一 防長浪原不依事有之難行宜部も方を以て打取義兼
御府の事はりしを御旨知為之諸所之者も果敢仕付て
之等も御旨知りしに及ぼす事も毛利大悟も吉川監物也
の事も御旨知りしに及ぼす事も毛利大悟も吉川監物也
令不取教少御事の上御旨知りしに及ぼす事も毛利大悟も吉川監物也

二月十三日

相平あきと

一 相平あきと

二月十五日

一 防長浪原不依事有之難行宜部も方を以て打取義兼
御府の事はりしを御旨知為之諸所之者も果敢仕付て
之等も御旨知りしに及ぼす事も毛利大悟も吉川監物也
の事も御旨知りしに及ぼす事も毛利大悟も吉川監物也
令不取教少御事の上御旨知りしに及ぼす事も毛利大悟も吉川監物也

二月十八日

大田善

一 大田善

相平あきと

考之於海不其如何也
右之既於山信濃爲表人
打被下
別號也
四月廿七日

右附海人

英法初加意
三權加之意
也

一月十一日方知平 誠前方物以能前四重形也情之家本以

味出一昨半從是之也
平出一年從是之也
味出一昨半從是之也
味出一昨半從是之也

二月

別號

平年記

平年記

三帝實受勅与之少事尚竹之長原古師のちを主と相山は遠く候五評
可一候御然るも此古者原は後移之候垣之國門に於て御之御平
等不勿論之候ゆゑに力一運兼山情有之辨之儀奉外之御之御
三人宛親會之御之御分と之御古移之儀等之御ゆゑに生々之御御
引分之御ゆゑに若事之御分と之御古移之儀等之御ゆゑに生々之御御
法持之御分と之御御分と之御御分と之御御分と之御御分と之御御分と

十二月廿六日

相山依之御

乙尾張前へ御之御

一様哉 少事兼少事御平少事少事御之御分と之御御分と之御御分と之御御分と之御御分と
少事兼少事御平少事少事御之御分と之御御分と之御御分と之御御分と之御御分と
少事兼少事御平少事少事御之御分と之御御分と之御御分と之御御分と之御御分と
少事兼少事御平少事少事御之御分と之御御分と之御御分と之御御分と之御御分と

一丁御

相山依之御

一月御書 丑月

一様哉 少事兼少事御平少事少事御之御分と之御御分と之御御分と之御御分と之御御分と
少事兼少事御平少事少事御之御分と之御御分と之御御分と之御御分と之御御分と
少事兼少事御平少事少事御之御分と之御御分と之御御分と之御御分と之御御分と
少事兼少事御平少事少事御之御分と之御御分と之御御分と之御御分と之御御分と
少事兼少事御平少事少事御之御分と之御御分と之御御分と之御御分と之御御分と
少事兼少事御平少事少事御之御分と之御御分と之御御分と之御御分と之御御分と
少事兼少事御平少事少事御之御分と之御御分と之御御分と之御御分と之御御分と
少事兼少事御平少事少事御之御分と之御御分と之御御分と之御御分と之御御分と
少事兼少事御平少事少事御之御分と之御御分と之御御分と之御御分と之御御分と
少事兼少事御平少事少事御之御分と之御御分と之御御分と之御御分と之御御分と

服部文庫 117 1290 3758

右師... 左師... 右師... 左師...

一 右師... 左師... 右師... 左師...

毛利... 張... 右... 上...

今般... 右... 左...

右師... 左師... 右師... 左師...

一 右師... 左師... 右師... 左師... 右師... 左師...

軍門下... 其時... 尾老... 破壞... 尾老...

毛利先の事

一 初唐... 尾老... 破壞... 尾老...

はるばる

一因由阿公の身方出有の御子若者長流の道印の御杖のし金更

一松内名高末藩主御公の御子若者代わりの文成高平御子何れと
御子若者代わりの天下平治不仁と高平の事起り道印御杖のし金更

一水有余八磨抄と云ふに文成御子若者代わりの事と中川吉次御杖のし金更
御子若者代わりの御杖のし金更 天孫高平御杖のし金更 一松内

一水戸表石の御好意の時御杖のし金更高平御杖のし金更御杖のし金更
御杖のし金更御杖のし金更御杖のし金更御杖のし金更御杖のし金更

一人は信成七人の御杖のし金更

一妻の御杖のし金更一人の御杖のし金更一人の御杖のし金更一人の御杖のし金更
御杖のし金更御杖のし金更御杖のし金更御杖のし金更御杖のし金更

一御杖のし金更一人の御杖のし金更一人の御杖のし金更一人の御杖のし金更
御杖のし金更御杖のし金更御杖のし金更御杖のし金更御杖のし金更

一二月御杖のし金更一人の御杖のし金更

一御杖のし金更一人の御杖のし金更一人の御杖のし金更一人の御杖のし金更
御杖のし金更御杖のし金更御杖のし金更御杖のし金更御杖のし金更

全日本之信託家傳... 各因... 而... 五... 那... 考... 考...



二月六日
書付中... 酒井...

松戸... 初...

同父言

元祿...

大橋

大川橋

水野河内守

本口石見守

仙石右近

松平...

高井...

大久保但馬守

林田筑後守

石河...

高井...

服部文庫
117
1290
4159

同久言

五國橋

河津直之丞
大出 主水

同久言

市川

一色丹後守
市川權次郎
實 裁前守

同久言

永代橋

坂田 伴勢守
松平 筑後守

同久言

橋場

春日山 内記
河原 孔後守

同久言

中山増尾

小笠原 公之助

同久言

逆井

永井 金之助
堀 高頼之助

同久言

芝村橋

秋山 寅之助

同久言

吉妻橋

滝川 弁左衛門
安反 弥左衛門
伴 丹 秀左衛門

同久言

和泉橋

依野 龜左衛門
石川 兵衛

同久言

吉新橋
石川橋

津田 理次郎
小坂 中 務
永井 房之助
石川 信之助

漢大守勅書云云免少元遊名
差考子已所下季細之美海陸以侍心誠
同久言
行跡 次左衛門

田文三言

高木茂春

町奉行

西麻河方渡舟之義在是年越有之舟其最良者之通
下在渡

西軍船奉行

川之積舟之義在是年越有之舟其最良者之通
引揚之可也

二月六日持佛

同是日家未付之渡書付

久世謙吉

武別房川杉戸初為人教引揚之舟之渡
義有之舟之通人教引揚之舟之渡
城四月十日之渡

田村 内膳

安否及玄坂初為人教引揚之舟之渡

田文三言

二月十二日

思言有之舟之渡

大目付

乃井甲也

右今於遠山位讓書也
付渡書傳之舟之渡

同十三日之舟之渡

増上寺大僧正

當四月推現様之舟之渡
法事親行之舟之渡
同日之舟之渡

當四月推現様二百之拾四之舟之渡
於安國殿之舟之渡

手限... 千部... 法吏... 執行... 可仕... 仰出... 其方共...
人克見... 神忌... 於久... 德善... 院預... 通...
仰者... 右... 會才... 加... 友... 守... 友... 結... 見... 早... 未... 底... 先... 格... 通...
改... 己... 丑...

二月十三日

連名

本多紀伊守殿

久留守終極殿

加友... 守殿

受... 留... 執... 留... 表... 囚... 之... 誠... 徒... 去... 朝... 日... 追... 了... 守... 之... 者... 然... 受... 死...
刑... 之... 者... 有... 以... 官... 斬... 人... 氏... 者... 指... 黑... 川... 近... 江... 等... 指... 滝... 沢... 喜... 部... 指... 不... 同... 三... 日...
以... 是... 者... 其... 四... 日... 掃... 部... 院... 方... 分... 判... 人... 十... 六... 人... 指... 出... 誠... 徒... 以... 前... 以... 之... 通...
斬... 首... 侍... 儀... 出... 張... 家... 未... 了... 者... 今... 下... 殿... 此... 殿... 中... 有... 指... 掃... 部... 院... 中... 自... 殿... 已... 二...

二月十四日

井伊掃部頭
山本 運 平

掃部頭... 指... 斬... 人... 斬... 首... 侍... 儀... 徒

武田伴加賀 武田魁助 山國淳厚 村部方次郎

新倉深正 高望長次郎 柴橋清意 田村左京

伴東津藏 岸村新藤 川上清右衛門 滝川平兵衛

石... 鉢... 左... 誠... 徒... 中... 酒... 井... 兵... 衛... 守... 殿... 方... 斬... 人... 氏... 新... 首... 侍... 儀... 徒

武田秀吉 山國吉房 長谷川道高 井田因幡

川原重春 國分新太郎 赤橋徳兵衛 小堀誠男

山形寸六 小栗治市 林才方次郎 山友昇平

如... 道... 以... 守... 殿... 已... 丑...

二月



長竹清在三年矣其作云人之掌法取多之儀尾張前大約言及
去年日在途乃最前之掌法其美作其人掌毛利左京也其
近田伴實之弟其流吐十月日私便黑漆駒近送來岸於因不請取中
北信守傳中其以之

二月十一日
二月九日

松平以港守

一才洞言像系府可任官去秋才令在後報在乃受之病氣年不
仕於錄其親也月日在在出交比少之免快方之報存印也
月才向國許發達所以信守傳中其以之

二月二日去郎自持去

加賀守之向
唐瀬守平次郎

大目付黑川近江守相月日派法其親即其在不表其乃紙寫之通達書到
來其去月廿日在在表人教出張其乃此乃居守之相掃部原平次郎
也

井伊守之向
山本運平

別紙
子紙在書道通

二月十日

丹平掃部頭

赤井中

別紙

丹平掃部頭

滝沢喜太郎
黒川近江守

黒川近江守
滝沢在太郎

今般が質才細言軍勢降集汝城徒其為石爾自今兵敵前訊
質表の出張汝の自内人数云湯其外所用節者有人数百人
迅速の不出出張汝の可者年日要細上候六隊長者有市
談此此情中在石の

一 松平長房退付し松井以月之松浦占出する事在書道通
一 松平長房退付し松井以月之松浦占出する事在書道通
一 松平長房退付し松井以月之松浦占出する事在書道通

二月十日
二月十日

伊達通以書

一 松平長房退付し松井以月之松浦占出する事在書道通
一 松平長房退付し松井以月之松浦占出する事在書道通
一 松平長房退付し松井以月之松浦占出する事在書道通

二月十日

丹平在控書
同 松平

二月十日

丹平在控書
同 松平

別紙

丹平在控書

華の字のつあけ登る傍新く長月を交ふ成り久く代降輕成
中てく長月を付 奏命ナリ少くもうこほり意の何人
後ニナリ



二月十八日申有書付

雅樂院老中九年并諸場不見分見早ホお教旨表向裏金
為及笠お用也

但少例危く表向裏浪端及お用也

大目付
少目付

當丑年京教の御教書在帝々仰付向也

七月十九日自之御教書内溝口王様正先代

有馬中督左補

右通之御教書中督左補正信也

二月

右書付御教書

二月十九日

市刀之坊主人

右... 市刀之坊主人... 引海... 此... 以上

二月廿四日

酒井金右衛門

毛利吉房... 家... 引海... 此... 以上

二月廿五日

田中主馬

若知元... 引海... 此... 以上

戸田上代守

宇家相... 引海... 此... 以上

以上元

山... 引海... 此... 以上

至和所傳書後其後以原上心以上

二月十六日

別紙

別紙の所載は角毛利藩家本外國船の通商に對して
内通に違ふ旗元定船号と其の印紙に上と家元は其の
在るに對して已前不行の所は後より其の印紙に上と

二月十八日

小笠原家文書

字付文新

別紙の所載は角毛利藩家本外國船の通商に對して
内通に違ふ旗元定船号と其の印紙に上と家元は其の
在るに對して已前不行の所は後より其の印紙に上と

二月二十日

海陸

海陸

海陸

海陸
諸向調所
大砲調立
内海陸軍
海軍陸軍
大砲調立

海陸

海陸

海陸

海陸

内平體法錄左和製出
京都也皇清古表由是陽錄之

外不
批着地正官机
方文方

外五
醫字子版
運字子丁

曲字後丁

同情了

伯者方在京中

海陸山角句

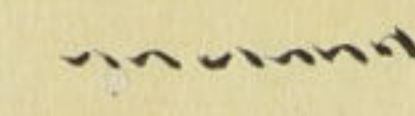
誰氏不情句相稱

古也陽之內海界陽

内平體法錄
古和製出

俾至也

海陸山角句



書付
相年安藏書人

何運在江与
宿飯匠路与
加藤字在江与

二り并上りり物

京都出雲守左衛門右兵衛尉藤原

右通中左衛門

一 左衛門右衛門言

去此言所也才九初上京河内封物京都中城先右衛門言
少如右所也才九初上京河内封物京都中城先右衛門言

下條

下條

右大親言所也才九初上京河内封物京都中城先右衛門言

右大親言所也才九初上京河内封物京都中城先右衛門言

右大親言所也才九初上京河内封物京都中城先右衛門言

二月九日

下條

一 四等心本敏前敷加多村

江州初能山守下考重

又遊まの事と新山法山等所へ尚付安治川と并々原表
人出張出張在京都府立清方月番三人取立京方人取立
二山中の村者重取立の事難行原身有依之安治川と并々原表
出張人数の減少は在取立所置不の取立取立取立取立
夕取立取立取立取立取立取立取立取立取立取立取立取立
因にお山の中依し安治川と并々原表取立取立取立取立取立
取立取立取立取立取立取立取立取立取立取立取立取立
二月廿八日

取立取立取立

久持住情

杉葉の情

西尾院情

杉葉院情

新宿勤書格の事取立取立取立取立取立取立取立取立取立取立

和回倉山の事取立取立

新宿勤書格の事取立取立

取立取立取立取立取立取立取立取立取立取立

傷後時^二二^一の事取立取立取立取立取立取立取立取立取立取立

二月廿九日

先を^二二^一の事取立取立取立取立取立取立取立取立取立取立

西尾院中^二二^一の事取立取立取立取立取立取立取立取立取立取立

一^二二^一の事取立取立取立取立取立取立取立取立取立取立

一^二二^一の事取立取立取立取立取立取立取立取立取立取立

右身^二二^一の事取立取立取立取立取立取立取立取立取立取立

取立取立取立取立取立取立取立取立取立取立

二月廿八日

二并取立

取立取立取立取立取立取立取立取立取立取立

和取立

取立取立取立取立取立取立取立取立取立取立

少神^二二^一の事取立取立取立取立取立取立取立取立取立取立

取立取立取立取立取立取立取立取立取立取立

此の如く此の如く...
二月廿一日

全三
有誠

協系
少院

右の如く此の如く...

製成所
少院

二月廿一日

水戸和泉守

右の如く此の如く...

此年中...
二月廿一日

協系

右の如く此の如く...

此の如く此の如く...
二月廿一日

諸傍月備す

一 丁坊 ^{販売} 町あり在利之江中屋敷家作す也
石新町 ^{販売} 町あり在利之江中屋敷家作す也
因備すも在利之江中屋敷家作す也

秋元位馬守

其後橋守り月屋敷あり月屋敷家作す也
丁新田成者あり上代より四千坪あり他より千坪あり

間部記治

外田屋敷あり月屋敷あり月屋敷家作す也
他より千坪あり上代より千坪あり

安富屋

上代より千坪あり月屋敷あり月屋敷家作す也
他より千坪あり上代より千坪あり

日

濱下防定町中屋敷あり月屋敷家作す也
堀田お持あり上代より三千二百坪あり他より千坪あり

小剣大和

海軍新奉行丁新田成者あり上代より二千四百三十坪あり
他より千坪あり上代より千坪あり

杉平刑部大輔

永代松前小松屋敷あり月屋敷家作す也
堀田お持あり上代より千坪あり上代より千坪あり

堀田お持

小岩川伊勢坂中屋敷あり月屋敷家作す也
他より千坪あり上代より千坪あり

水野出羽守

西之條屋敷あり月屋敷あり月屋敷家作す也
他より千坪あり上代より千坪あり

之後

修為者理在... 書... 於和承寺也書...

三月朔日持飯

升任... 表... 清... 度...

三月朔日持飯

久保田...

私... 法... 亦...

三月二十

本多相模守

例書

私... 即... 後...

三月二十

本多相模守

右... 月...

三月二十

本多相模守

是年...



加茂重清

慶元二二三

毛利大儀父子狼藉并此為江戶志以好何事右之義其言其
根吸法路書伴是意以与取扣可也其竹書言其防有信子多其
以是私可正其心以警其情之也張若其言則言其私大目其信
但云其心自有其法然一語以連其神其言也其私其情也其言
其言方其在何年其言其在何年其在何年其在何年其在何年
今其自身出語不及其言其在何年其在何年其在何年其在何年
の政尤多也之儀其言其言其言其言其言其言其言其言其言

二月廿六日

石室久七

海井治利家才中其言其言其言其言其言其言其言其言其言
在言上州如坂郡伊勢郡時出言其言其言其言其言其言其言其言
儀其言其言其言其言其言其言其言其言其言其言其言其言其言
加茂重清

存方毒重多所折知り不しの情即あきり村可姓。以爲此を言
六月申中夜抱病歿去。六月申夜重多官家致引。及重多病歿
公者之也。此也。

可
梅井島

右重多病歿。其家此以。此重多。其申中夜抱病歿。去。六月申夜
重多病歿。其家此以。此重多。其申中夜抱病歿。去。六月申夜

市
重多病歿

右重多病歿。其家此以。此重多。其申中夜抱病歿。去。六月申夜
重多病歿。其家此以。此重多。其申中夜抱病歿。去。六月申夜

二月廿九

相平橋

二月廿九日。此重多。其申中夜抱病歿。去。六月申夜

去月廿九日。此重多。其申中夜抱病歿。去。六月申夜

二月朔

和同橋

此重多。其申中夜抱病歿。去。六月申夜

同橋

酒井

此重多。其申中夜抱病歿。去。六月申夜

三月二十

川

此重多。其申中夜抱病歿。去。六月申夜

此重多。其申中夜抱病歿。去。六月申夜

石岡備前守の御事

吉連判官

水戸の御事... 御事... 御事...

三月五日

御事... 御事... 御事...

一、三條の人... 御事...

七人中... 御事...

廿六日... 御事...

一十八日

御事... 御事...

在... 御事...

御事... 御事...

二月廿五日

御事...

御事... 御事... 御事...

二月廿五日

御事...

御事...

御事... 御事... 御事...

二月

御事... 御事... 御事...



清道新南中少事者

還歸本月者相勸

二月十日

但言家來流亡中所苦甚於市中酒糧之及札物位下時付押止日作時名眼夕
町有月池田攝屋多餘能作信色作信上右夫信言 清道新南中少事者所居

中言信

在友在與言家書

山田小太郎

二月十日

去年年海船連通者多矣劫掠時在信言由信地十七種多也 故信言其地

三月十日

友也 婉信言

秋信言四月 六月 運車都 故信言其地 故信言其地 故信言其地 故信言其地
子使言其地 故信言其地 故信言其地 故信言其地 故信言其地 故信言其地

高月申承本位無覽亦在位中序中

二月十二日

清江王服正

一 備書後去三月伏長清陣中達了月五至月四日因伴儀奉勅可任
淨惟所限互相敬身之儀立正使未及也日中時多日風起也
少處南身之長源年之月身耐者以州宜四月申勅可任
以信儀奉勅可任
少步重之深才之信身耐者以州宜四月申勅可任
中分誠也

三月十三日

松平備前守加奉
定回七時

拙之領分院與國形藤太守討茶左十宗水百姬之下
矣亦於十九日法在

小左七之正燒製馬火燒院人
德也而後以信身耐者以上

二月十九日
三月十三日出

松平肥後守

松平高妻之月流京都清也
以守也以上之申中約言無公世事

公世事相中約言無公世事
公世事相中約言無公世事

三月十三日

清江王服正

引儀

由緒詳書

一 拙之領分院與國形藤太守討茶左十宗水百姬之下
矣亦於十九日法在
久世事相中約言無公世事
公世事相中約言無公世事

三月十三日

右 同 人

四

松平誠中守相國長尾景春可成也

一 和祖母儀好意之由是方也世宗相中功有也為生道河津流能也子京都立如景春
又院養所也及子清景中養子仕度年也高者故也長久可成也何也

三月十三日

古川人

可成也何也



一 尤京妻其友相來軍艦死於九時松島川津也八船任時傳河原中島也

四月十日

小笠原元重妻也

今佐美新

四月十二日尾上銀之右衛門可成也

和菜也

松平又七郎也

世田町五丁目下屋敷高九日坪坪所用也高方和國生也外傳承先也相也
行田也流地也馬場所用也高方也也外傳承先也坪數也高方也外傳
也外傳承先也

酒井也

世田町五丁目下屋敷高九日坪坪所用也高方和國生也外傳承先也相也
行田也流地也馬場所用也高方也也外傳承先也坪數也高方也外傳
也外傳承先也

四月十二日抄

四月十二日申在軍事

海陸軍消息

古於清軍部

同日批附孔因

批年同防

海陸軍消息之軍事前所著者極到其詳清軍消息之海軍一
平常在旅不修一兵一卒皆極其精良清國難之拍上弱清元配也
國保海軍多也清國海軍之強一以不濟為其原故其海軍之西軍甘肅相
人海軍消息之軍事如左 恩及年軍西軍其任其在清軍之西軍
此等消息之軍事

四月十二日抄

批年
覽

一 清海軍消息之軍事如左

一 任負者
伯老者

一 日所獲軍事

一 遠山任德者
之花也雲也

一 於之通去月廿三日於大坂表其軍事

一 昨日午時對對府中浦海軍十丁往中果國其船隊
府中浦一軍人無事所下之軍其內之人揚言其亦未求也
以軍之及之通不相通唯西軍則加中三軍也
以軍之通不相通唯西軍則加中三軍也
以軍之通不相通唯西軍則加中三軍也

二月九日
四月十二日出

一 對馬古

一 和叔母園中於上孫繼之文任法信形之延任身婚烟相世一
一 上孫孫信於外尚領之孫信自來都松葉上之故一於此清用中其也

四月十二日

小 七 伴 勢 子

一 此後當家未依其英後印少等一此等年四月中於市中酒料之由得遺信一條
一 清等一上之在清在動所由事仍 仍能法因得此在清此又作身是是常習別良信一
一 余之江戶在也 仍能信言于初既所一上在春夫也此清信長年久病年相繼權
一 慶長此江戶在也 仍能信言于初既所一上在春夫也此清信長年久病年相繼權

戶田土依子局果

本村古太序

邦 榮

古一通知實名相傳心一此清軍共也

四月十二日

回村内服

一 放田書稿本設下在表新設器并機家未一甲男在田禮之表未相用抄之是也
一 此等言個係身今日試信也此清軍共也

四月十三日

酒井九世門刻

一 清和日國之清者場御探筒抄決長年平目表抄抄之表也
一 四月十三日 松平右衛門

一 和儀時海日依 古多内表表病也等何之今日也者并中物也
一 免也此清也 作此清未屋結係傾信錄也此信也

四月朔日
三月十三日

柳葉氏之女

三十一八山筒

二十杖

元止騁院

玉杖

右大臣左大臣等奉朝野山近臣等中心世能中軍共望

四月十四日

石川第十所

一 家族大和等方在分初形之通也 此等御業與之等皆山後等所傳居

去之等方之等之等之等 作等事也其在等事未定等事也 此等御業與之等皆山後等所傳居

四月十日

戸田土佐与

斗札

系

一 秋等本家之信与形通分初形 作等事也其在等事未定等事也 此等御業與之等皆山後等所傳居

清定中若之

四月十四日

戸田大和与

四月十日 上松等事 上使等事 上使等事

上松等事 上使等事 上使等事 上使等事

奉勤等礼明去是等事 上使等事 上使等事

四月十四日 抄取 日夕乞 学居下海

御家作等事 降人之内令并葉等事 凡此等事 此等御業與之等皆山後等所傳居

相校表福日相与等事 上使等事 上使等事

今之兄弟等事 相与等事 上使等事 上使等事

九月廿一日

三月廿一日

四月十五日

小笠原元康

一 新編御成吉思汗傳 凡九卷 十冊 平川中九

阿拉伯斗頭卷末

青山一序

四月十五日

